

視聴覚教育

82

No.

発行年5月1日

発行
岡崎市AVL
編集
広報委員会

見ること・生かすこと

現職教育委員会視聴覚部部长

太田 憲 五口

視聴覚教育月報も八二号を教えることになった。今年も九一号まで発行の予定である。この月報の編集に係る方々のご労苦に感謝すると共に、読者の各位に、視聴覚教育の進展に役立てていただくようお願い申し上げます。

さて、今年の研究主題を「視聴覚教材・機材を生かした授業のあり方を求めて」とした。

視聴覚教材の利用は、ライブラリーの保有するものの貸出し状況によると、小学校一七四八本、中学校七六六本、社会科七七二本、理科八八六本、保健一九九本、道徳特活二一四本、一校で利

用した最高は一八一本であり、自作教材の利用が三三四本と非常に利用率が高くなってきている。(昭和五十六年度分)

今年も、一層のご利用と、生かすことを考えていただきたい。

視聴覚教材の生かし方について、清中喜平先生は、放送教育五月号に「一見の効果に満足することなく、一見の裏に一考が必要であることを覚らせることが大切である。」と言われていたが、映像の意味を考え、心をゆさぶる感動ある授業がしたいものである。

大きな視野で可能性を求めよう

— 放送教育・視聴覚教育研究大会 —

本年度も 放送教育・視聴覚教育に関する研究会・研修会が各地で予定されている。是非ご参加を!!

- 放送教育全国大会 十月十一・十二日 埼玉・浦和市
 - 学校視聴覚教育全国大会 八月九・十日 京都
 - 東海北陸放送教育研究大会 十月五・六日 三重・津市
 - 愛知県放送教育特別研修会 八月二十六・二十七日 名古屋
 - 全国小学校放送教育特研 七月二十八日―三十日 蒲郡
 - 全国中学校放送教育特研 七月二十九日―三十日 東京
- 市内では、大樹寺小学校が九月に視聴覚教育の研究発表をする。

授業で生かそう 視聴覚教材 機材

五十七年度 視聴覚部研究主題決まる

昨年度より、中学校へのアナライザー、小中学校への校内放送自
動化システム装置の導入など、視聴覚関係の施設・設備は各校と
もかなり充実してきた。

本年度は、こうした教材・機材を授業の中でより一層生かすた
めに次のような研究主題と重点目標をたてた。

〈本年度の研究主題〉

— 視聴覚教材・機材を生かした授業のあり方を求めて —

〈研究の重点〉

- (1) アナライザーを用いた授業法の研究
- (2) 視聴覚能力を高めるための工夫（教師自らの力も含めて）
- (3) 自作教材の製作とその活用

昭和五十七年度 視聴覚部組織

- 部長 太田 憲吾（大樹寺小長）
 副部長 大塚 鑑治（美川中長）
 副部長 杉浦 英夫（矢南小長）
 副部長 中村 翼（常磐中長）
 指導員 加藤 憲尚（市教委）

世話係

運営委員

- | | |
|---------------|------------|
| 小正 牧野伊佐夫（三島小） | 石川 誠一（矢南小） |
| 小副 白井 正社（細川小） | 岡田 金二（常磐小） |
| 中正 二村 邦彦（福岡中） | 清水 弘（広幡小） |
| 中副 生駒 隆章（竜海中） | 小出 明（大樹寺小） |
| ライブラリー職員 | 江坂 良夫（南中） |
| 宮田 典彦 三橋 厚 | 高木 和弘（美川中） |

ライブラリーだより

【機材・教材の貸し出し方法】

ライブラリーでは、機材（16ミリ映写機・スクリーン
VTR等）や、教材（16ミリフィルム・スライド等）
の貸し出しを行っています。利用申出書に記入の上
提出して下さい。貸し出し期間は7日以内、フィルム
等は7本以内です。また16ミリフィルムに限り、学校
へ火曜日に配達、翌週の月曜日に回収サービスを行っ
ています。申し込みは電話で、詳しくは目録を参照し

【ビデオ・ダビングサービス】

自作ビデオ教材や学校放送番組（社理道等）のダビング（複製）
を行っています。テープにタイトル、校名を書き入れて送って
下さい。（注）日数はゆとりを持って、早めに希望して下さい。